

第2章 筆の知識

一、筆の種類

筆は中国・日本製が主流である。
現在、使用されている筆は、書筆、画筆、化粧筆などその種類はきわめて多彩であるが、ここでは、書筆、画筆を対象に説明する。

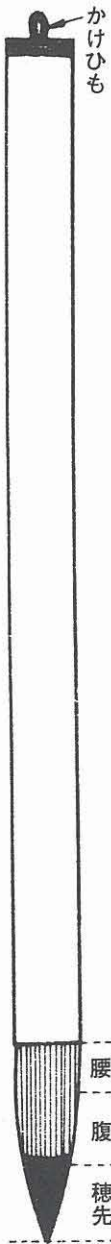
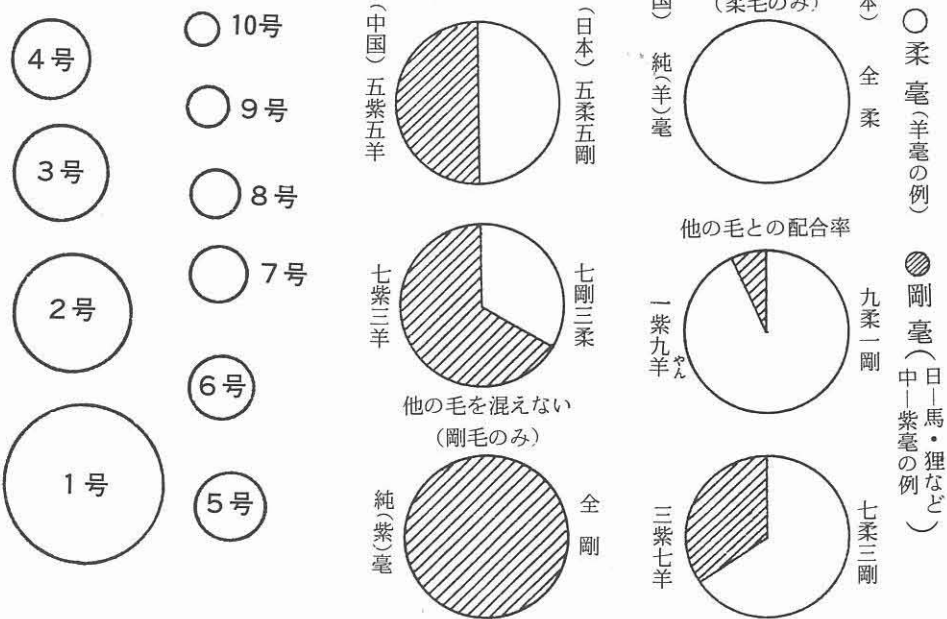
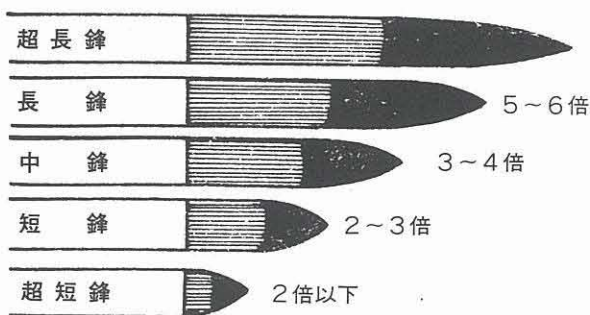
(一) 筆管の太細による種類

軸の太さに合わせて毛の太さが決められるが太いものは、特号筆、一号、二号、三号、四号、五号、六号、七号、八号、九号、十号、極細筆(版下書用)と記号して太細を表している。これらは、俗に太筆、細筆、大筆、小筆というように表せられている。

(二) 穂の長短による種類

筆の穂の長短によって、柳葉(超長鋒)、長鋒、中鋒、短鋒、雀頭筆(超短鋒)に分類される。その他面相筆、底紋筆、連筆などがある。

毛の長さによる種類



毛筆の規格(竹軸)

号数	軸の直径 (cm)	標準字数
一 号	一・五 (五分以上)	半紙一字 半切用
二 号	一・四五 (四分八厘)	半紙二字 半切用
三 号	一・三 (四分二厘)	半紙四字
四 号	一・一 (三分六厘)	半紙六字
五 号	一・〇 (三分二厘)	半紙六~八字
六 号	八・五 (二分八厘)	半紙八字~十二字
七 号	七・六 (二分五厘)	中字用
八 号	六・七 (二分二厘)	中字用
九 号	六・〇 (二分)	細字 書簡用
十 号	五・五 (一分七厘)	細字 書簡用

毛筆の規格(木軸)

号数	軸の直径 (外径cm)	標準字数
一 号	一・二 (四分)	
二 号	一・五 (五分)	
三 号	一・八 (六分)	
四 号	二・一 (七分)	
五 号	二・四 (八分)	
六 号	二・七 (九分)	

筆管の太さ

長短(鋒形)によるもの

号数	軸の直径 (cm)	標準字数
一 号	一・五 (五分以上)	半紙一字 半切用
二 号	一・四五 (四分八厘)	半紙二字 半切用
三 号	一・三 (四分二厘)	半紙四字
四 号	一・一 (三分六厘)	半紙六字
五 号	一・〇 (三分二厘)	半紙六~八字
六 号	八・五 (二分八厘)	半紙八字~十二字
七 号	七・六 (二分五厘)	中字用
八 号	六・七 (二分二厘)	中字用
九 号	六・〇 (二分)	細字 書簡用
十 号	五・五 (一分七厘)	細字 書簡用

(全国書道用品生産連盟)

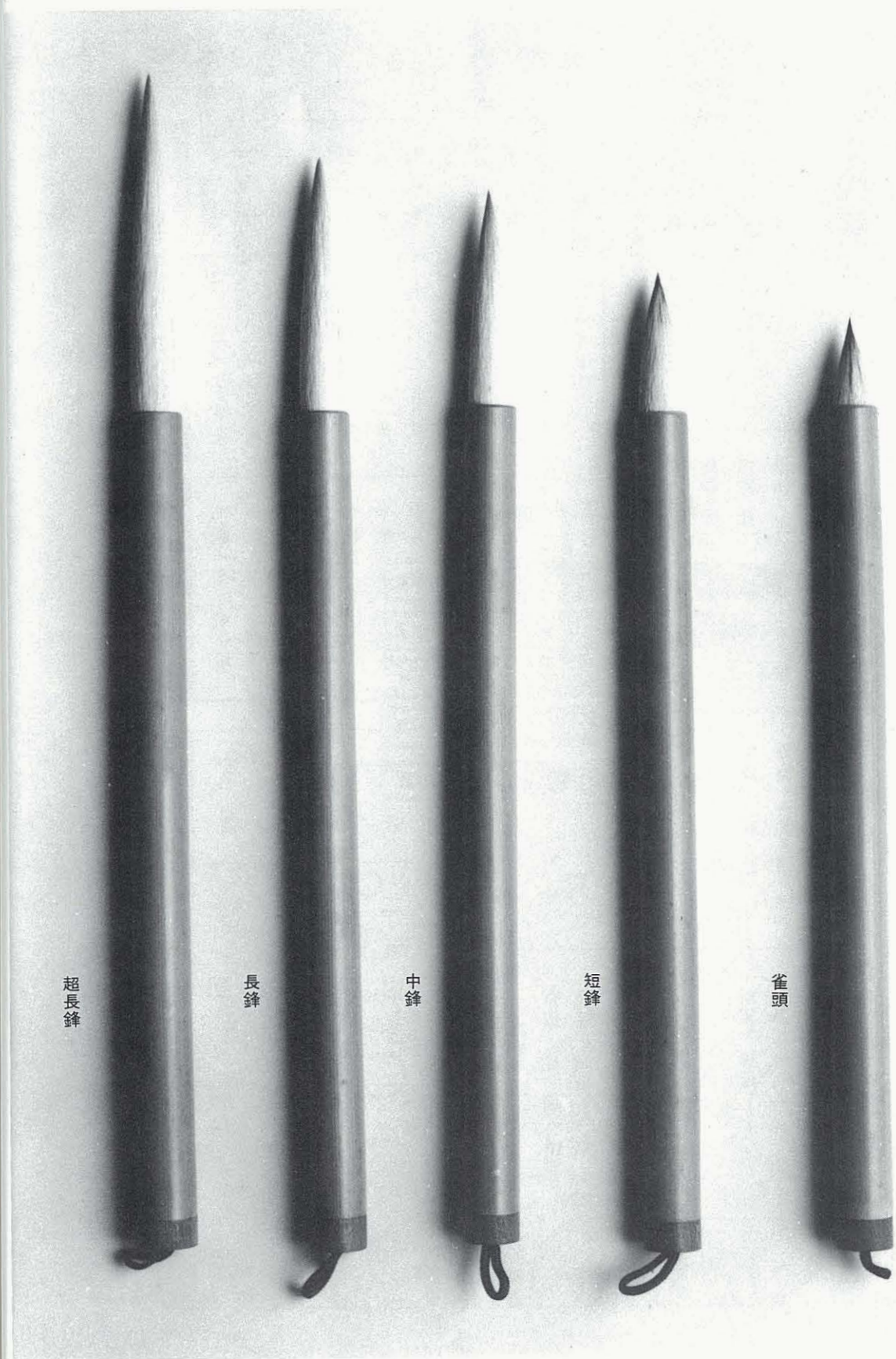
(超)長鋒 凡そ六倍以上	(日本製) 柳葉筆 長鋒(穂)・柳葉 中鋒(穂) 短鋒・写経筆 雀頭・天平筆 かぶら筆・どんぐり筆
-----------------	---

(中国製) 鶴脚 長鋒(穎・穎) 中鋒(穎・穎) 短鋒(穎・穎) 玉筍 若筍 蓬頭
--

(中国製) 京搯・提斗筆・洪筆 壺筆・瓶筆・巨筆 (形の名称、細いものにはない) 書篇 大対筆・大聯筆 対筆・聯筆 大屏筆 条幅筆 小条幅 中楷 大楷 寸楷	頂号 大 号 二 号 三 号 四 号 五 号
--	---------------------------------------

(全国書道用品生産連盟)

毛の長さによる種類 水筆（固め筆）



超長鋒

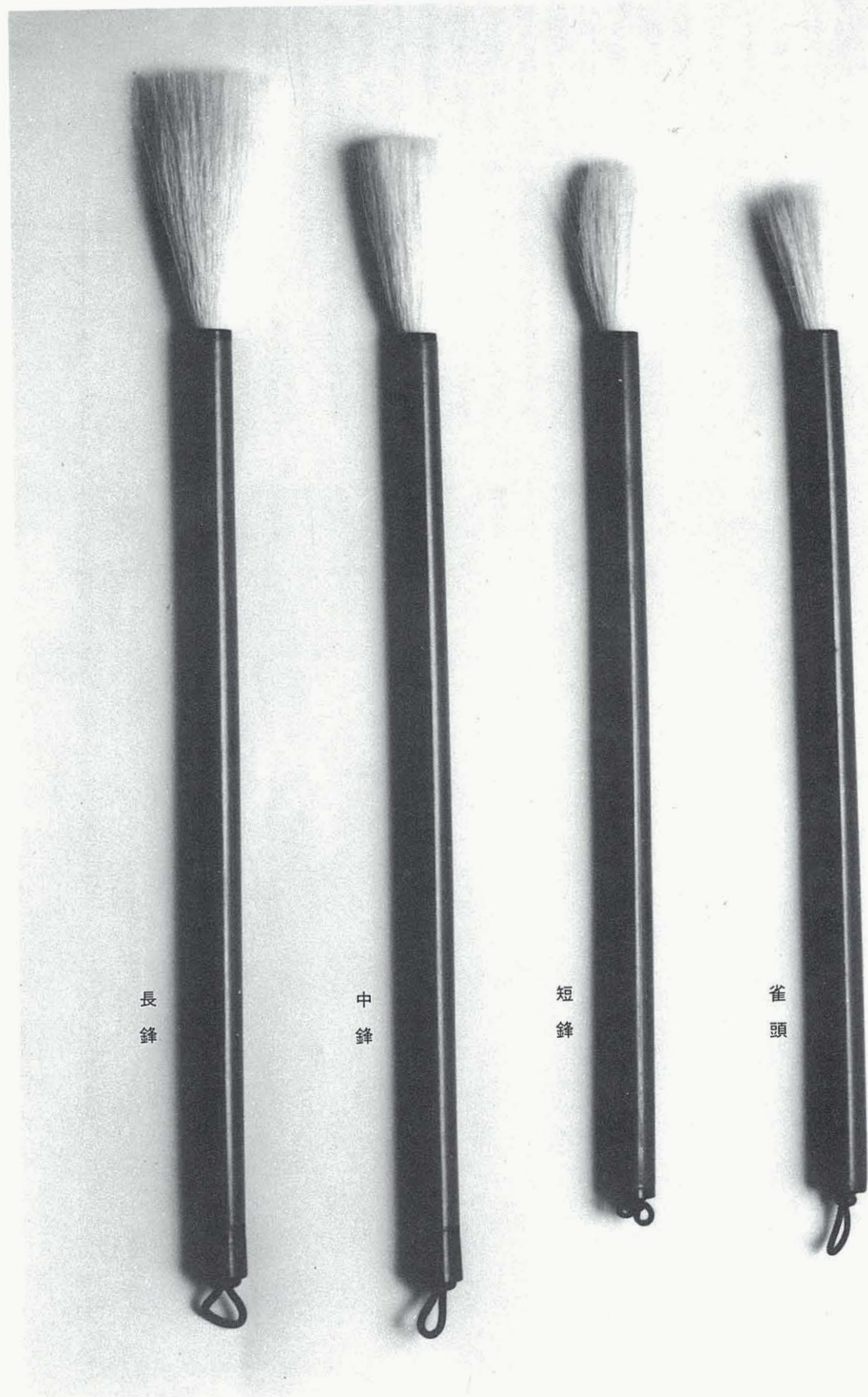
長鋒

中鋒

短鋒

雀頭

捌き筆



長鋒

中鋒

短鋒

雀頭

(三) 製法による種類

外形上の製筆方法によって、水筆、捌き筆、巻筆などに分類することができる。

水筆

水筆は、穂全体をフノリで固めたものであり、俗に「糊固筆」ともいう。

かつて、中国においては、筆の製法が巻仕立筆であったので、鋒全部をおろすことができなかったが、清の乾隆帝時代から水筆が造られ使用されるようになった。

日本では、明治初期頃まで、巻筆が中心であったが、中国から原料の輸入が可能になると同時に、巻菱湖、市河米庵、貫名松翁など、中国書風に憧憬した人々が水筆を使用推称したので一般に普及した。

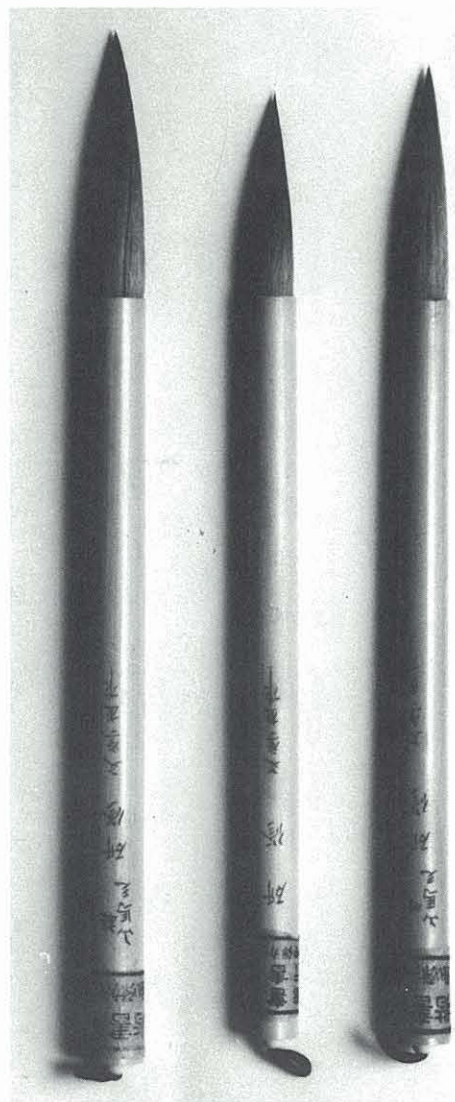
捌き筆

捌き筆は、フノリで固めないで散毛状態にしておくところから、俗に「散毛筆」ともいう。

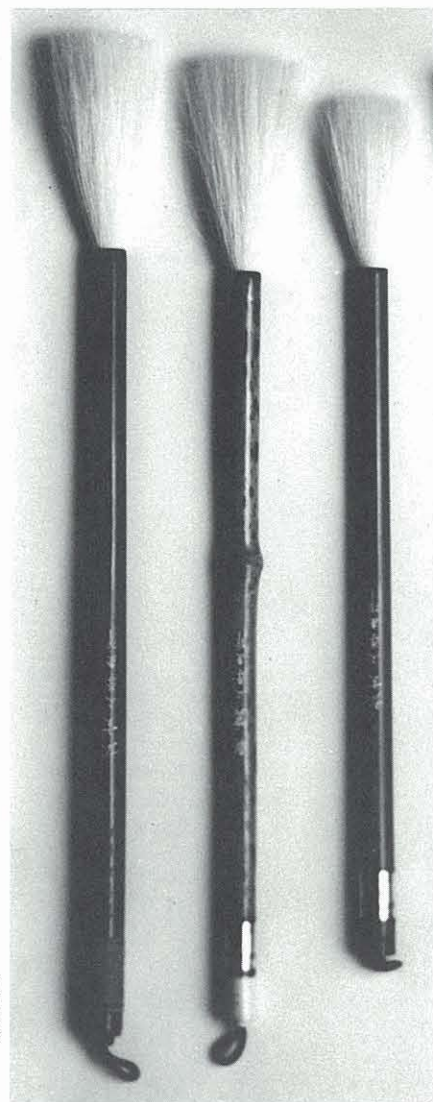
日本では、明治初年まで捌き筆はなかったが、明治十三年、楊守敬が公使何如璋の随員として、古碑法帖を携え来朝し、日本書壇に六朝書風を流行させた。特に、楊守敬の影響を受けた日下部鳴鶴が、羊毫の長鋒捌き筆を使用するようになってから一般化し今日に至っている。

巻筆

巻筆は、穎鋒の回りを覆毛せず、代りに薄書



水筆



捌き筆

院紙を巻くところから、「紙巻筆」ともいう。

日本では、古くから、この製法によって行われ、正倉院御物の天平筆、延喜筆も、この製筆法にならったものである。

中国においては、清時代まで、この巻筆が水筆と併用されており、また、日本では明治初年頃まで使用されていたが、水筆、捌き筆などの需要普及から、今日ではその製法も使用もほとんど行われていない。

以上、三つの製法は中国からのものだが、わが国のものとしては他に、真書筆、籠巻筆、連筆などがある。

真書筆

真書筆は、前述の筆とは異なり、少量の毛を筆芯にして造り、衣毛も覆わせないで、軸を二段、三段と重ねたものであり、細く長鋒ではあるが、鋒先が強く版下書きによく使用されている。

籠巻筆

籠巻筆は、鋒の腰くだけや分裂を防ぐために、鋒首を金網で巻いたものである。

連筆

連筆は、一本の筆を何本かまとめて造るところから「合筆」ともいわれている。

(四) 毛の柔剛による種類

筆に用いている毛は多種多様であるが、毛の

堅さによって、剛毛筆、兼毫筆、柔毛筆に分類される。

この剛柔を、全剛、九剛、八剛、七剛、六剛、五剛、六柔、七柔、八柔、九柔、全柔と分けており、中国筆には、七紫三羊、四紫六羊などと銘している。これは柔剛混合の割合を示したものであり、七紫三羊とは剛い紫毛七に対して、柔らかい羊毛三を混ぜたことを意味する。

剛毛筆

古来、剛毛としては、狸、鹿、馬、などの毛材が多く使用されていた。

鹿、山馬など動物に生えている部分に柔剛の差もあるが、毛質の中で、全剛、九剛、八剛、七剛位を「剛毛筆」と称している。

兼毫筆

兼毫筆は、剛毛と柔毛を混合させて造ったものであり、中国では、「加料筆」ともいっている。毛の堅さは六剛、五剛、六柔、五柔あたりのものである。原毛の性質から、筆鋒全部が純粹な剛毛筆、柔毛筆というものは少なく、その点、兼毫筆は求めやすい。

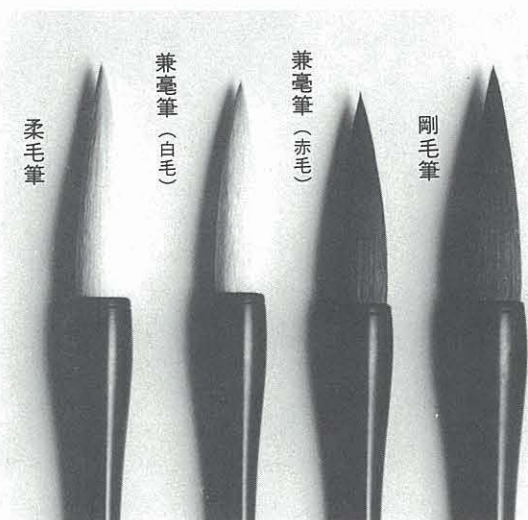
柔毛筆

柔毛筆は、純羊毛で、全柔、九柔、八柔、七柔位までのものである。

原料には羊毛、鹿毛、猫毛(玉毛)、猿毛などである。

一般に、長鋒柔毛筆を好む人も多いが、柔軟なために腰が固定せず、思うように運筆できず

筆圧の弱い線となるが、逆に、駆使すると豊潤渾古な表現が自由にできる筆である。



剛毛筆

兼毫筆 (赤毛)

兼毫筆 (白毛)

柔毛筆

(五) 原料による種類

筆の原料は動物の毛が主であり、獣毛筆には、鼠毛、狸毛、貂毛、兔毛、狐毛、羊毛、猫毛、栗鼠毛、鹿毛、山馬毛などがあり、また、鳥毛筆には、鶏毛、雉毛、鶴毛、孔雀毛、鴛鴦毛(おしどり)などがある。

この他に、竹筆、藁筆、草筆、蓮筆、筆草、人毛筆などがある。

筆の意匠 獣毛筆



人毛筆（大人）



むささび毛筆



馬尾筆



猪筆（中国産）



赤貂筆



猪筆（日本産）



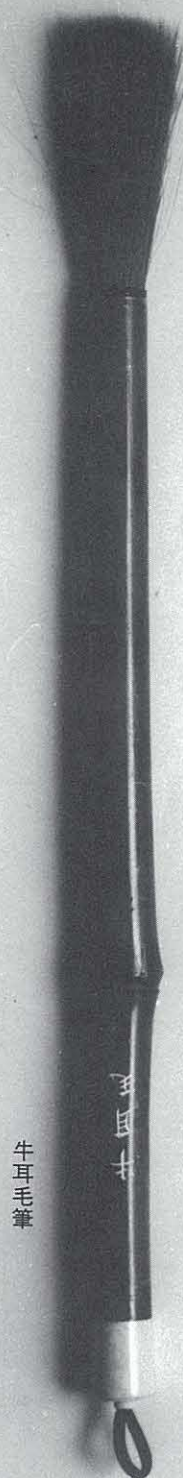
黒貂筆



山猫筆



山馬筆（鹿毛筆）



牛耳毛筆



鼬毛筆 (イタチ)



胎毛筆 (幼児)



縞栗鼠筆 (シマリス)



白玉筆



鼠筆 (ネズミ)



白狸筆



兎の口髭筆



貉筆 (ムジナ)



羊毛筆



栗鼠筆

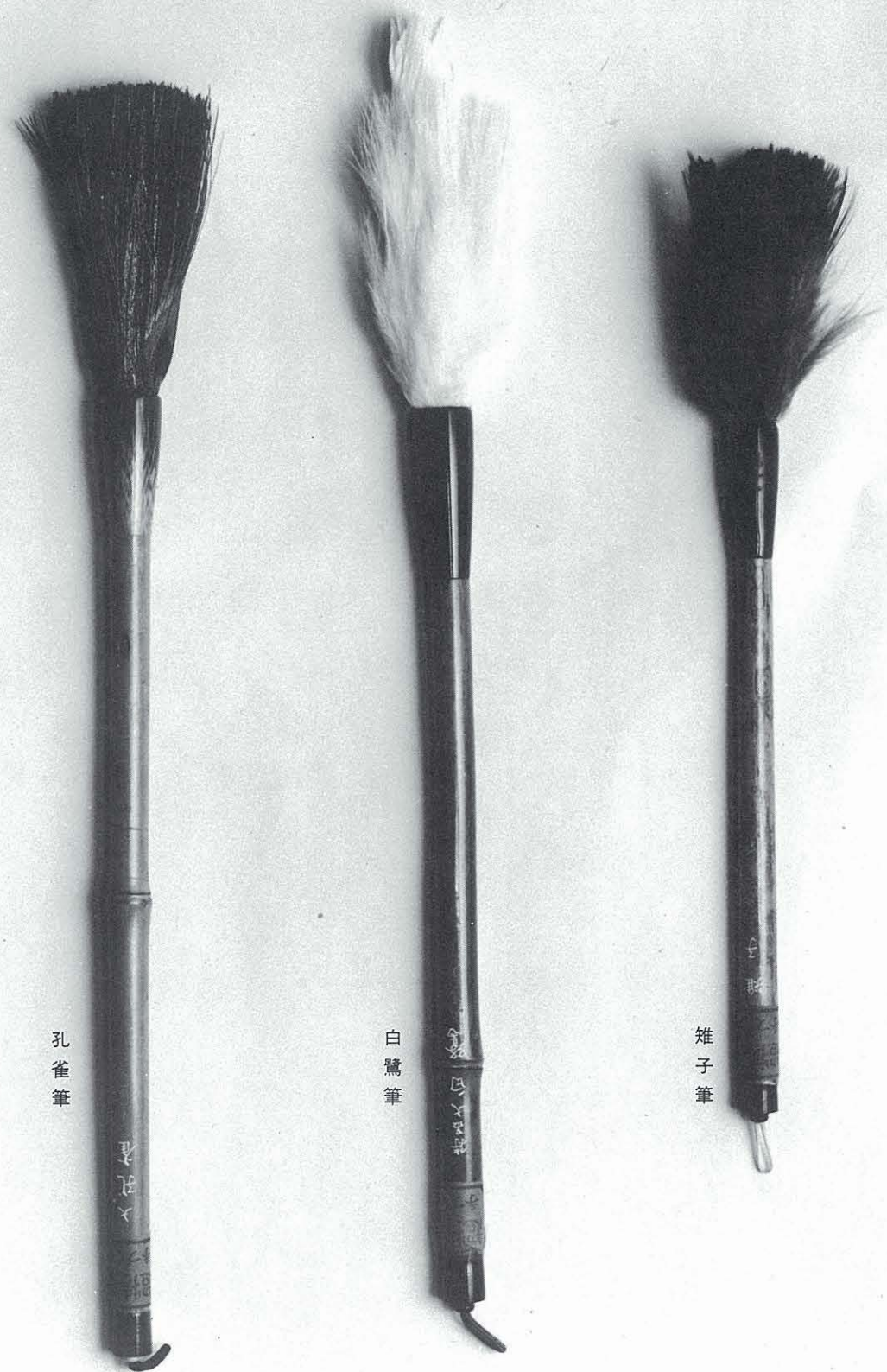
珍筆



パンダ筆 (上野動物園)

ほうじ筆 (たんぽぽ)

鳥毛筆

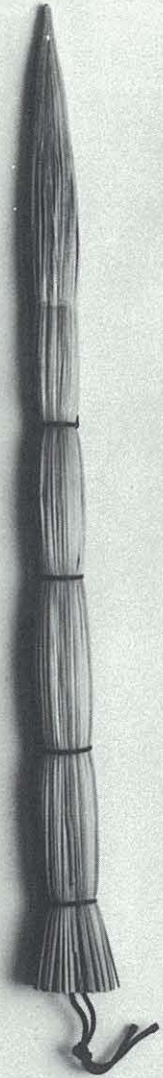


雉子筆

白鷺筆

孔雀筆

植物筆



藁筆



草筆



山帰来筆



すすき筆



梅の木筆



軍鶏筆



水口水口鳥筆



鴨の筆



鶏毛筆

日本の筆 細光鋒（羊毛）



特撰・広徳



極品宿浄純羊毛・弘玄



虎杖筆（イタドリ）



竹筆



櫟の木筆（ハシバミの木）



松筆

羊毛筆(柔毛)



極品・老・宿淨純羊毛・書心(長鋒)

極品・老・宿淨純羊毛・書心(長鋒)

宿淨純羊毛・研修(長鋒)

極品・老・宿淨純羊毛・広徳(長鋒)

極品・老・宿淨純羊毛・広徳(超長鋒)

極品・老・宿淨純羊毛・広徳(長鋒)



純羊毛・書心(長鋒)

純羊毛・書心(超長鋒)

極品・老・宿淨純羊毛・広徳(中鋒)

極品・老・宿淨純羊毛・広徳(長鋒)

極品・老・宿淨純羊毛・広徳(長鋒)

極品・老・宿淨純羊毛・広徳(超長鋒)

極品・老・宿淨純羊毛・広徳(超長鋒)

天尾筆（剛毛）

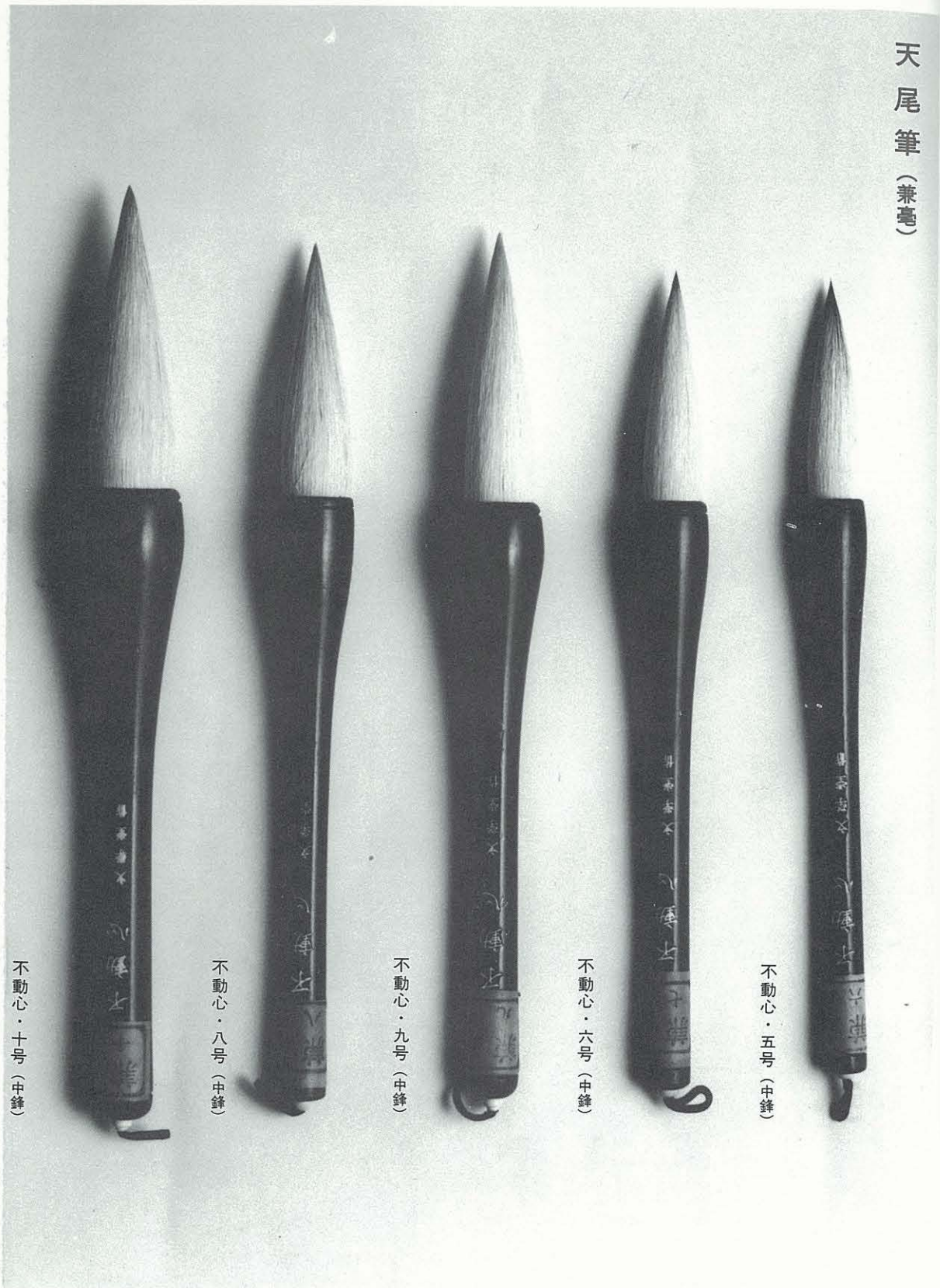


天馬（中鋒）

特品・天馬（中鋒）

天馬（中鋒・捌筆）

天尾筆（兼毫）



不動心・五号（中鋒）

不動心・六号（中鋒）

不動心・九号（中鋒）

不動心・八号（中鋒）

不動心・十号（中鋒）

馳筆（いたち）（兼毫）



馳毛・六号・研洞（中鋒）

馳毛・研洞（中鋒）

馳毛・四号・研修（中鋒）

馳毛・三号・研修（長鋒）

馳毛・研洞（中鋒）

特製・馳毛・研修（長鋒）

細字筆



中玉壺（馳毛・狸毛）

大玉壺（馳毛・狸毛）

笹ながれ（馳毛）

笹ながれ（馳毛）

小玉壺（馳毛・狸毛）

白玉研修（猫毛）

白玉・研修（猫毛）

特品・白玉（猫毛）

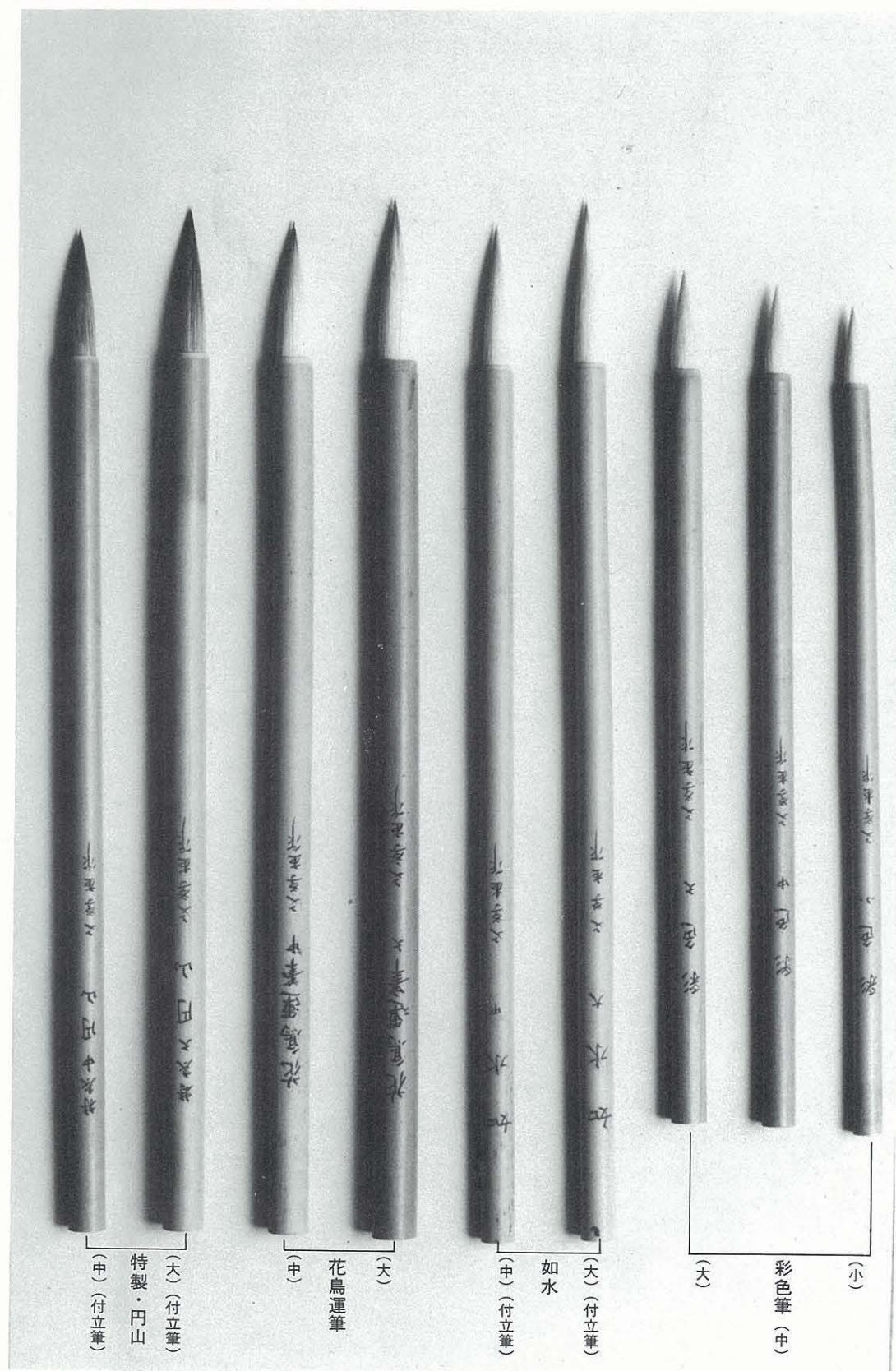
白玉・研修（猫毛）

特撰・萌春（馳毛）

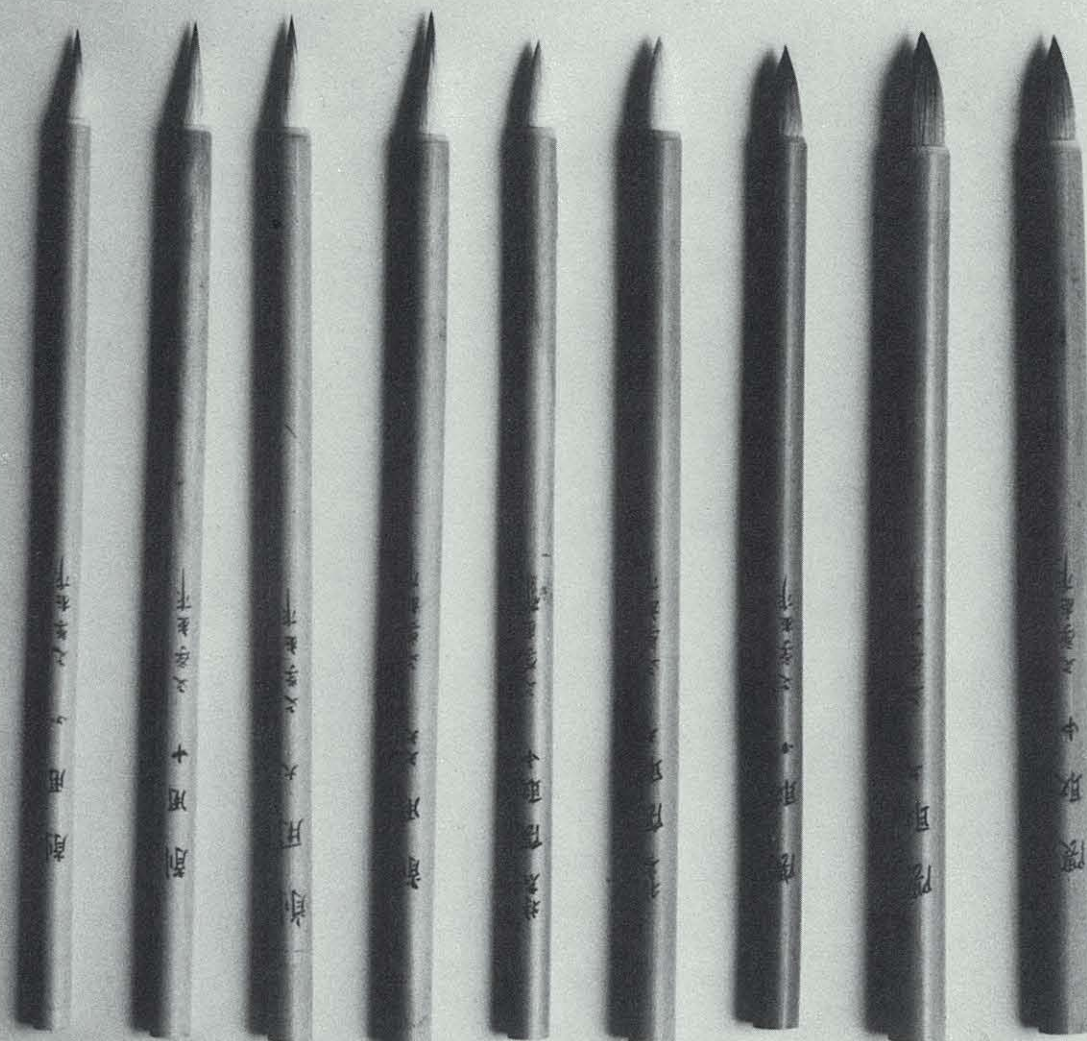
面相型筆



日本画筆



日本画筆



削用(小)

削用(中)

削用(大)

削用(特大)

特製・隅取(中)

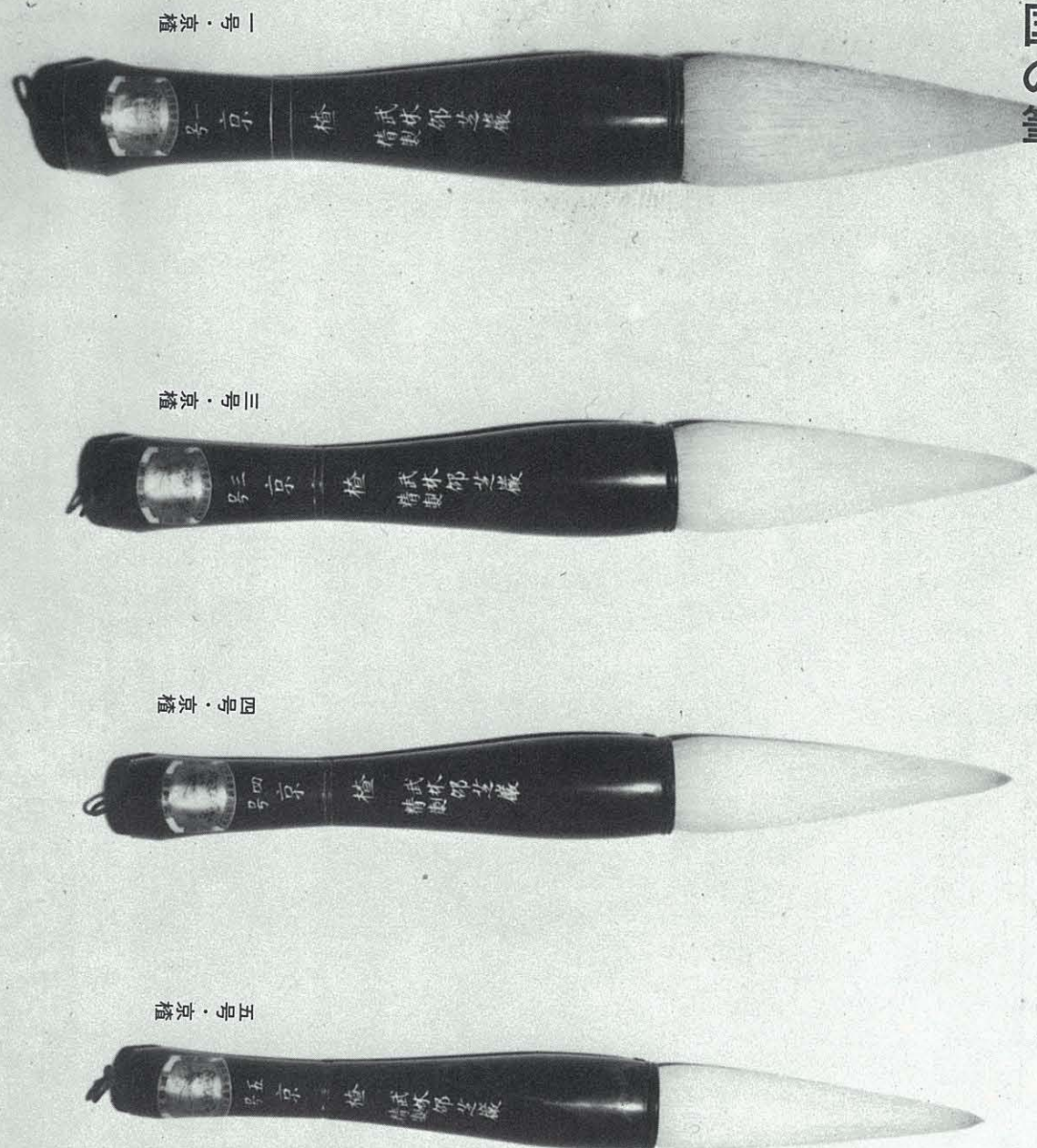
特製・隅取(大)

隅取(小)

隅取(大)

隅取(中)

中国の筆

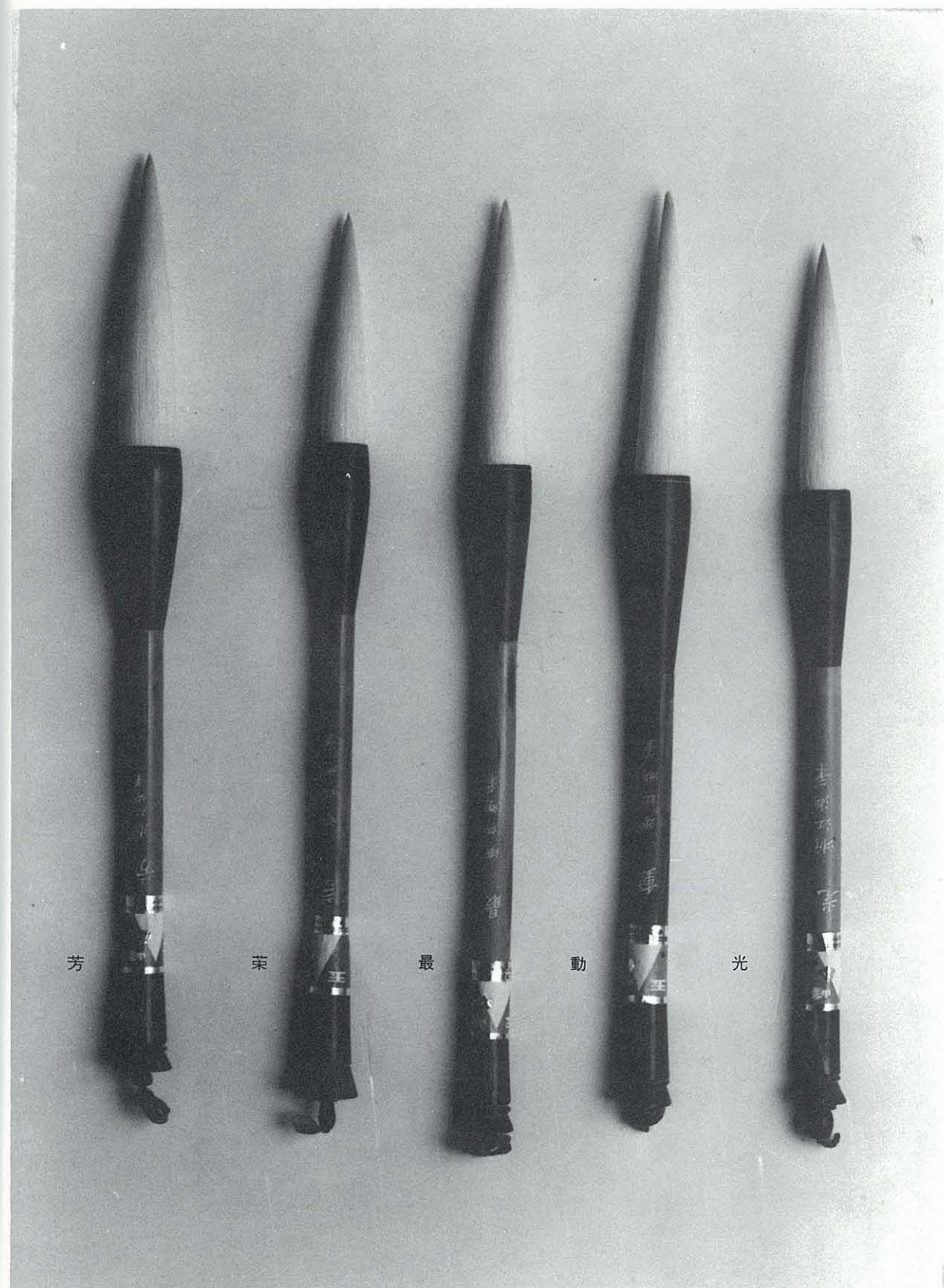
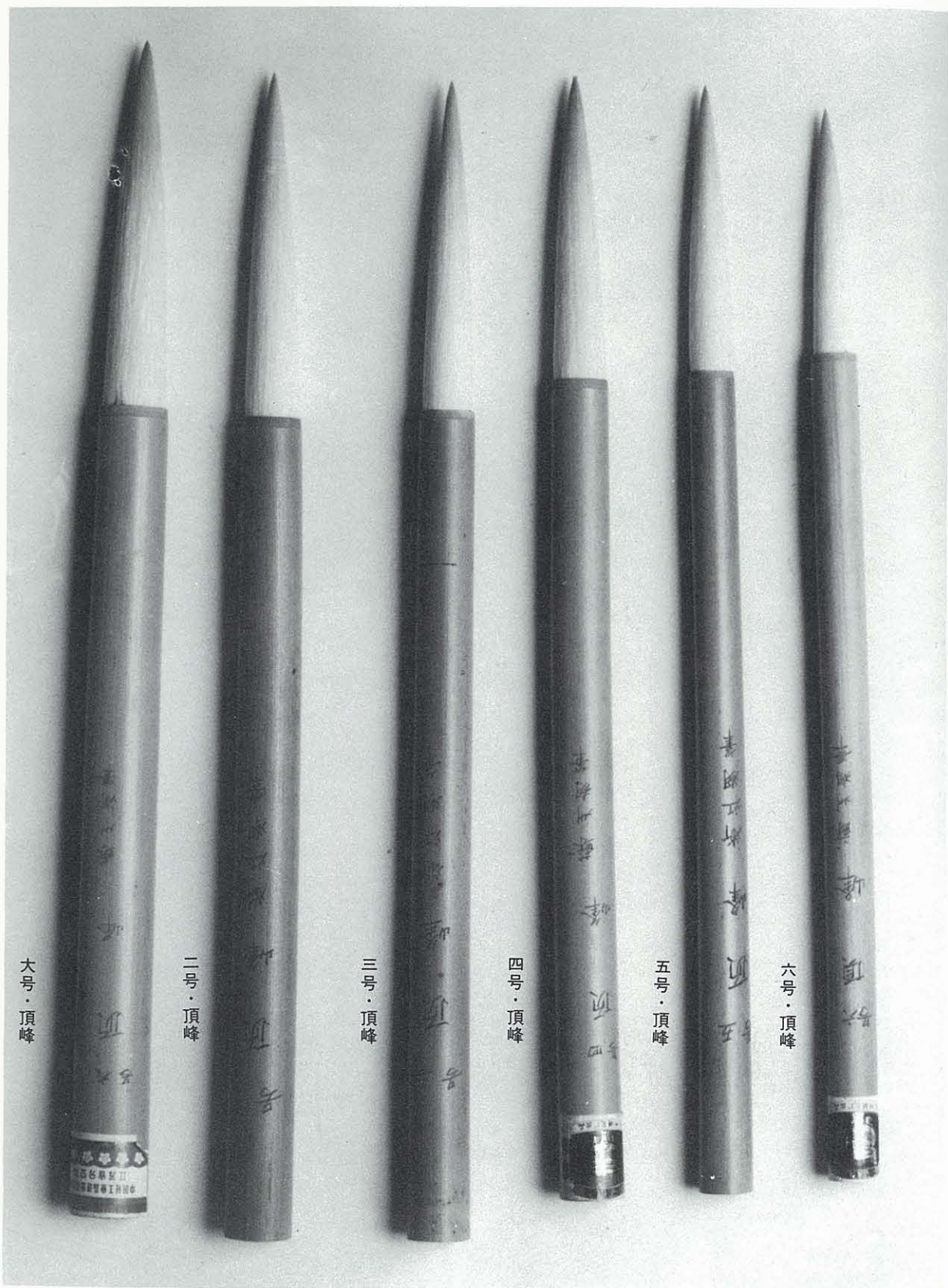


一号・京植

二号・京植

四号・京植

五号・京植



白玉無瑕

無上妙品

右軍書法

白鶴展翼

二號・蓋峰

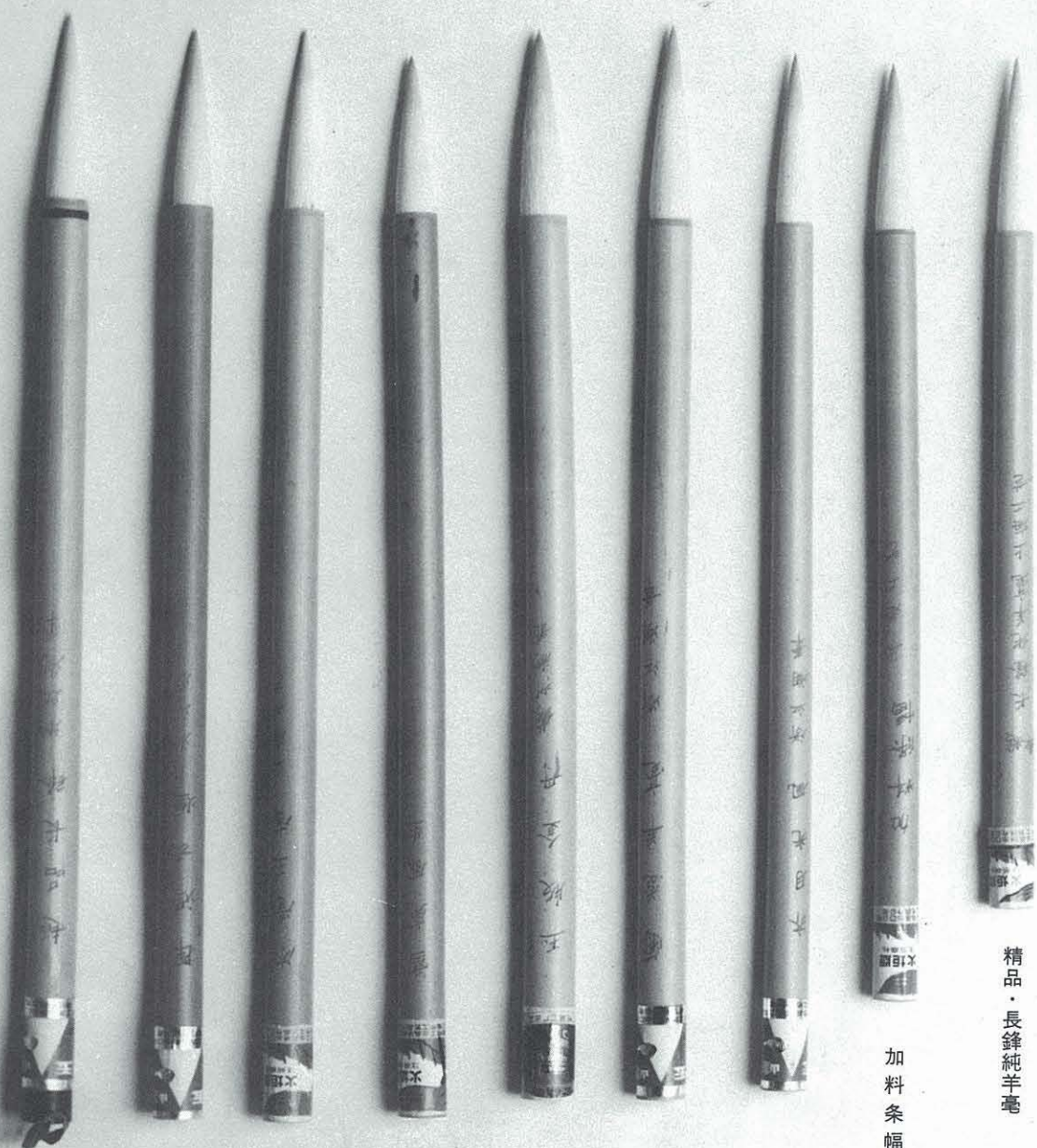
大號・蓋峰

三號・蓋峰

四號・蓋峰

五號・蓋峰

六號・蓋峰



超品・長鋒

揮酒光煙

冰清玉居

雪亮風生

玉版金丹

蘭蕊羊毫

齊月光風

加料条幅

精品・長鋒純羊毫



◀ 小山馬筆

▶ 鼠鬚對筆



豹狼毫



狼毫大花卉



▶ 超品・玉蘭蕊
▶ 仿古・玉蘭蕊



精品・玉蘭蕊



二号·花枝俏



三号·花枝俏



一号·花枝俏



大 鼠 鬚



精製·中長鋒



精製·小長鋒



精製·大長鋒



紫 狼 毫



極品·双料·摺筆



助人為樂



特製(大)七紫三羊



双料·写卷



双料·五紫五羊毫



七紫三羊



極品·写卷·小楷



中楷紫毫

